

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102465		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム愛の里 1		
所在地	福島市大森字街道下52番地		
自己評価作成日	平成24年9月22日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように地域の一員として、地域で安心した生活が送れる様に地域の方々との交流を大切にしている。そして個別ケアに焦点を置き残存機能を活用し1:1での個別リハや、コミュニケーションの1つの手段として学習療法を取り入れている。認知機能や前頭野機能の維持向上を図るため、個々に合った「読み書き」「計算」を行いながら職員とコミュニケーションを図っている。また買い物や、散歩、ドライブ、外食、年に1度は観光バスにて日帰り旅行等へ出かけ、楽しい活気ある日常生活が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、利用者の状態像を的確に把握し、介護計画による介護サービス以外に身体機能を高めるリハビリテーションや脳の活性化を促進するための公文式学習療法を取り入れた個別ケアを実践し利用者の自立支援に努めている。
2、事業所で飼っている猫が利用者に安らぎと穏やかな雰囲気醸し出し、アニマルセラピーの役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夏祭り、運動会、イベント等を実施し、地域との関わりを多く持ち、業務では個別ケアに重点を置き学習療法や個別リハを実施、個々にあったサービス提供を職員一丸となって行っている。	利用者の権利をより具体的に表現した形の文言が理念になっている。地域密着型サービスの精神に立ち職員全員が参加して作り、管理者と職員は会議、打合せ、ケア等の中で一体となって実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等には参加(清掃作業、地域包括支援センター主催の研修行事)し、避難訓練にも地域の方々の参加を依頼しグループホームを理解していただきながら地域の一員として暮らしているように心がけている。	地域の一員として、町内会等に参加し清掃活動及び環境美化活動などにも努めている。また、事業所の各種行事に地域の方々にも参加していただき事業所、利用者の方々との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で避難訓練を行い、委員の方々には入居者様の現状を理解していただいたり、行事等を通して地域の人にも理解や支援をいただいている。他に外出の機会を設け交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議では事業所の取組内容等を説明し、助言や意見をいただき、改善に取り組みサービス向上につなげている。(避難時の避難経路の確保、火災時の近隣者の協力、菜園等)	町内会長、民生委員等の理解と協力を得て、定期的に会議を開き、事業所の利用状況及び活動状況を報告し、また各種行事にも積極的に参加していただいている。しかし、委員からの意見・提案等の記録がないため内容が明確でなかった。	会議メンバーからより多くの意見、提案をいただけるように会議の進め方等を工夫してほしい。また意見・提案は記録に残し、それを職員とともに共有しながらサービスの向上につなげてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告時には市訪問利用者様の生活状況や、サービスの取組状況等を説明したり、地域包括支援センター職員とは運営推進会議等を利用し、状況を報告したり相談助言をいただいている。	事故報告時等に利用者の健康・生活状況などの報告及び利用サービスの状況などについても説明し協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には職員交代で参加、研修報告を兼ねて身体拘束禁止について理解を深め、利用者様にはその都度適切な対応をし、ドアには鍵をかけない自由な生活を支援している。	職員を「身体拘束廃止と虐待防止について」等の研修会に積極的に参加させるとともに伝達研修及び職員会議等を通し職員の知識習得と意識啓発に努め実践している。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的にも虐待が行われないように日々会議等で話あったり、研修に多く参加し勉強に取り組んでいる。そして不適切なケアをしていないかを確認したり、見逃されていないか等職員同士コミュニケーションも密に取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し職員が理解を深め、必要のある利用者の家族様には情報を提供したり、担当者の訪問時にも情報提供し協力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には一度見学をしていただき、不安のないように重要事項説明書にそって説明をし理解をいただいたり、改定等の際は家族報告会や文章で周知徹底を図り、理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開催される家族報告会で意見要望等を聞いたり、随時来所時に伺いそれを職員会議で話し合い運営に反映させている。	年2回の家族会議では事業計画、事業報告をし要望・意見を聞きながら、事業所の運営に反映させている。また、家族の関心が高い「看取り」については、事業所も希望にそった態勢づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時必要時に話し合いの場を設けたり、月1回の職員会議等で出された意見等は必要に応じ稟議書を提出してもらい検討している。そして承認事項については早急に対応している。	管理者は月例の職員会議や日常業務の中で職員の意見を聞き取っており、その中で利用者の趣味・特技を活かすため、「電子ピアノ」を購入し、利用者が演奏し全員で楽しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給は毎年実施、賞与は年2回支給、資格所得者に対しては報奨制度があり、人事評価も実施し各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の機会は設け、資格所得希望者には便宜を図ったり、個々にあった実力を把握し法人内の職員移動を行い、技術向上に繋がる環境作りをしている。他に2か月に1回内部勉強会も実施したり、法人全体の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会等には積極的に参加し、他の同業者との交流を持ち意見交換をしたり、必要時には訪問をしたりとサービスの質の向上に努めている。またヘルパー養成校の研修も受け入れ日々職員も勉強し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を利用し本人の生活面、心身の状況、焦点情報等を把握し、本人の要望等を聞きながら安心が確保出来るように会話の機会を多く持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションの場を多く持ち、家族の気持ちに寄り添いながら気軽にいつでも相談できる場、雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話し合いの場を設け意向を確認し、必要なサービス(社会資源や他のサービス)を見極め提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事(残存機能を活用)は一緒にに行い、介護することばかりではなく一緒に生活を共にすることを前提に関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化する本人の体調、要望等は随時家族に報告し、支援の方法を検討しながら対応している。各行事等にも家族様の参加を促し、利用者様との一緒の時間を共有していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの美容院に行ったり、商店に買い物に行ったり、馴染みの場所とのふれあいを大切にしている。また理、美容師の訪問があり新しい馴染みの関係作りも行っている。	利用者の入居期間が長くなるにつれ訪問理美容師との馴染みの関係が築かれてきている。また散歩、買い物を通して、事業所周圍の方々や商店との馴染みの関係が支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格や状況意向を把握し、自然な関わりが持てるように、適時フロアーでの席替え等を行い、孤立しないような状況作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化し退去が余儀なくなった利用者様家族に対して、今後に不安を抱えている情報提供したり、随時相談に応じている。そして気軽に来所できる環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの時間帯を利用し本人の意向や希望を確認したり、困難時は本人の表情、動作から職員が思いを察知し、それを職員間で共有し本人本位のケアに努めている。	東京センター方式の暮らしの情報、焦点情報等を活用し家族の情報も取り入れて利用者の思いや意向を適切に把握している。また、寄り添いながら時間をかけて利用者本位の個別ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し本人家族の協力の基情報を集めている。不十分な所や不明な点は随時家族様の協力を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で個々の能力を把握したり、状況の変化に応じてその都度確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議の中でモニタリングをし、家族の意向も踏まえ介護計画を見直している。又他職種とも連携も図り意見を聞きながら関わっている職員全員で作成している。	利用者の思いや意向を適切に把握し課題等を会議で検討し生活援助計画の中で課題を解決するために何をどうするかを詳細に記載されている。実施結果は時間ごとに記録されケース記録には突発的な事項も詳細に記録しており、見直しの根拠も明確である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録簿(個別)に随時記録をしたり、申し送り簿に記載し情報の共有を図り、ケアを見直し実践に反映したり介護計画もその都度見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の希望により歯科医師による口腔ケアや、訪問理美容等地域資源を活用したり、地域のボランティアを受け入れサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を活用し、近くの店に買い物に行ったり、公園や近隣の食堂に出かけたり地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は状況により家族様と相談しながら決定し、受信時には不安なく診療してもらえるように必要に応じ医療機関に情報提供したり、適切な医療を受けられる様な関係を築いている。	協力医療機関やかかりつけ医との連携が円滑に行われており、家族による受診支援が行われている。申し送り簿に受診内容を記録し家族、職員間で情報の共有を図っている。協力医療機関の医師による往診も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職だけで判断せず、些細なことでも看護師に報告し、支持を仰ぎ適切な医療、看護を受けられる様に配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対し確実な情報を提供し、確実な治療を受けられる様に支援している。そして入院中は病院を訪問したり随時電話にて状況を伺い、早期に退院が出来るようにアプローチしている。主治医とも連絡を密にとり今後の対応策等も検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や家族報告会を利用して重度化や終末期のあり方を看取り指針に沿って説明し、家族様の理解を頂き、本人や家族様の今後の意向を確認している。医療機関とも情報を共有しチームで支援に取り組んでいる。	看取り介護に関する指針により入居時に家族等に説明し同意を得ている。また、同意書には意向に変化が生じた場合には主治医の受け入れについての同意も得ている。現在まで看取り介護は実施していないが医療機関と連携し職員研修を行うなど体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習会を受講したり、急変時や事故発生時等のマニュアルを作成し、グループ内で研修をし周知徹底を図っている。また随時状況の変化時は職員で勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の愛の里全体の消防訓練や、運営推進会議開催時に地域の方々にも参加して頂き、避難訓練を行っている。また緊急連絡網に添って通報訓練も行い全職員の周知徹底を図っている。	隣接している同法人運営の2事業所と合同の総合防災訓練を年2回実施している。また2か月に1回事業所独自の避難訓練を行い利用者の安全を確保するための避難方法等を身につけている。運営推進会議を活用し近くの委員が訓練に参加するなど協力も得られている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々言葉使いや行動対応の仕方を職員間で注意し合ったり、会議等でも話合っている。入室時はかならずノックをし、声掛けにて許可を得て入室している。	個人情報保護に関する研修を行い、利用者のプライバシーの保護と守秘義務について習得し実践している。利用者に対し人格を損なうことのないよう言動にも留意し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にコミュニケーションを密にとり、本人の思いや希望を聞いたり察知したり、可能な限り希望に添えるように努めている。介護の中では利用者様が自己決定し、日々生活できるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その人のペースを大事にし、本人の意向も聞きながら強制することなく生活を行っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に洗濯をした清潔なものを準備し、本人に好きな洋服を選んでもらったり、女性の利用者様には化粧をしたりマニキュアをつけたり、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者様と食事メニューを決めたり、調理の下ごしらえを手伝ってもらい、食事中は食材の話や献立の内容等の説明をしたりしながら、楽しく食事ができるよう配慮している。	食前口腔体操を行い、職員と会話を楽しみながら楽しい時間を過ごしている。毎日利用者の意見を取り入れ食材を購入しており、新鮮で旬のものを調理している。カロリーについても栄養士のチェックを受け健康管理に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回栄養バランスガイドのチェック状況等を栄養士に見てもらいアドバイスや指導を受けている。また摂取量や水分量も毎日チェック個々に対応し、体重の増加も考慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや入れ歯の清掃を行い、夕食後は舌苔ブラシを使用し、口腔ケアを行っている。月1回希望者は歯科医の口腔ケアを受け、個々にアドバイスを受けながら本人に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしたり声掛けを行いトイレでの排泄を促しながら、オムツ使用が軽減できるように自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を確認しながら利用者の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導し自立に向けた支援を行っている。パットやおむつ使用についても家族に使用状況を説明し、使用軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握しその時間帯にトイレ誘導したり、飲食物や内服薬(主治医の指示で)にて調整を図り、体調管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には入浴剤を入れたり、時間、順番等は個々の希望やタイミングを見て調整し、コミュニケーションを取りながら、楽しく入浴が出来るように支援している。	週3回の入浴支援を行っている。利用者の心身状況を見ながら気分よく入浴できるよう時間や順番等も調整し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡をしその日の体調を見ながら随時休息を促している。夜は個々にあった就寝時間を尊重し、フロアでテレビを見たり一緒に話をしたり、お茶を飲んだりしながら今までの生活習慣を維持しながら安心して安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保管し、いつでも内容確認が出来るようにしている。同時に服薬管理や、服薬介助も担当を決め確実にやっている。薬の変更時等は注意事項等を見て症状の変化に注意をしながら、異常時は直ぐ報告が出来る体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存機能を活用し、出来る事(掃除、洗濯たたみ、片付け等)を分担しながらやっている。レクリエーションでも得意な分野ではリーダーになってもらい、意欲向上を図りながら気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望者を募り散歩やドライブに出かけ気分転換を図ったり、食べたい物があれば買い物に出かけている。1年に1度はバスで遠出したり、希望があれば家族様の了解を得てお墓参りに出かけている。	日常的な外出はもとより、外食や買い物、近くの景勝地など事業所のワゴン車を利用し外出支援を行い気分転換を図っている。バスを利用した日帰り小旅行による交流も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を家族様より預かり事業所が管理し、外出時や買い物時には好きなものを買ひ、支払等は能力に合った支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員の支援の下家族様へ電話をしたり、1年に2回(暑中見舞い、年賀状)は可能な方には自筆でハガキを書いてもらい家族様へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも音楽を流し、花や写真、作品等を掲示し、温度等も調整しながら住みよい環境作りをしている。玄関には季節の花を植え季節感を楽しんだり、花の手入れも職員と一緒にやっている。	演歌、民謡から文部省唱歌まで幅広いジャンルのCDがあり、利用者の希望や気分などを考慮しながら音楽を流している。また居間や廊下には旅行や各種行事に参加した時のスナップ写真に加え、共同制作した貼り絵等が掲示され居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように数か所にソファやテーブル、畳スペースも確保し、冬は炬燵を作り、好きな場所で好きな人と過ごせるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使用していた家具や飾り物、仏壇等を持ち込み馴染みの環境作りをしたり、家族の写真等を飾り個々に合った環境の中でその人らしい生活が送れるように支援している。また家族様、利用者様の希望により畳での生活を希望される場合は在宅での物の配置等を伺いながら環境作りも行っている。	居室のハンガーには思い出の洋服が掛けてあり、また家族との集合写真、仏壇等があるなど、その人らしく暮らせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を生じないように目印や個々に合った表現方法で掲示し、自立した安全な生活が出来るように支援している。		